

慶留間集落

慶留間集落：慶良間式スローライフ

慶良間にある集落は、過去 70 年の間に大きく変化しました。元々の木造住宅の多くは 1945 年 3 月のアメリカ海軍による砲撃で破壊されました。平和の訪れとともに、平屋の木造の建物は、より大きなコンクリートの建造物と入れ替わり、家を囲む生垣やサンゴ石灰岩でできた古い塀は、コンクリートブロックの塀になりました。しかし、古い塀や風よけがそのままになっている慶留間は、元来の沖縄の特徴を色濃く残しています。

「ケラマグリーン」を体験

慶留間島にあるこぢんまりとした慶留間集落（人口 60 人）は、第二次世界大戦以前の慶良間諸島の村がどのような姿をしていたか知ることができる場所です。色とりどりの鳥、蝶、野生の花との出会いを楽しみながら、サンゴの塊でできた塀やフクギの並木（自然の防風林の役割を果たしています）の間の舗装されていない砂の路地や青々とした草地を歩くことができます。これがケラマブルーならぬ、ケラマグリーンの世界です！

慶留間で訪れるべき場所

•伝統的な船乗りの家屋

海運で財産を築いた慶良間の先住者たちの家は「船頭主屋」と呼ばれていました。非常に保存状態の良い船頭主屋の例である高良家は、慶留間で最も見事なサンゴの塀に囲まれています。高良家では、慶留間の裕福な家庭が 20 世紀半ばまでどのような暮らしを営んでいたのかが伺い知れます。

•子どもたちのための慰霊碑

より悲しいところでは、戦争記念碑「小鳩の塔」に向かって丘を登ることもできます。この記念碑は、1945 年 3 月の米軍上陸後に起こった集団自決で命を失った 13 名の集落の子どもたちと、北太平洋の日本領の島々における戦闘によって亡くなった 22 人の子どもたちを慰霊しています。塔からは集落と地元の学校が見渡せ、子どもたちの魂が安らげるようになっています。